

# 書あり 師あり 友ありて



## 2枚の写真から

直心さんのお母様から頂きました

学校長 平田 高之

ここに2枚の写真があります。第74期生徒会執行部が、体育大会及び文化発表会を終えた後に、自分たちで作ったスローガンの前で撮った集合写真です。この2の写真から、体育大会の時には気付かなかったことを文化発表会の時に感じました。



まずは、本校生徒会執行部の男女比です。13名のうち男性が4名、女性が9名です。

先日菅総理大臣が、ベトナム及びシンガポールに外遊に行かれ、首脳会談をされていましたが、その時の映像を見ると、女性は日本側の通訳一人だけで、それ以外は背広を着た男性ばかりでした！2019年1月での女性国会議員比率は、日本は24.3%で193か国中165位、G20諸国では最下位となっています。

学校は女性が多い職場です。中学校は男性職員の方が多いのですが、逆に、小学校は女性職員の方が多くなっています。しかしながら、そんな学校現場でさえ、女性管理職は少なく、明石市では、小中高特別支援学校43校87名中12名(13.8%)しかいません。特に中学校では、部活動等による教職員の超過勤務が大きな問題となっていることもあり、残念ながら27名中わずか2名(7.4%)だけで、政治家どころの話ではありません。

改めて考えると、生徒会執行部が政治家や学校の管理職と同じという訳ではありませんから単純な比較はできませんが、本校の生徒会執行部は先進的だと思いました。

次に、なぜ体育大会の時には男女比を感じなかったのを文化発表会で感じたのかですが、男女で違う服装だからでした。本校の体操服は男女同じですし、体育の授業も男女共修で、小学校では当たり前の話ですが、本年度から男女混合名簿としました。しかし、制服については、令和の時代になっても、男子は詰襟、女子はブレザー＋スカートのままです。本年度の冬服より女子もスラックスを選択できるようにしましたが、ジェンダーフリーの観点からはまだまだと思っています。先日、姫路市立山陽中学校が、来年度より、男女ともブレザーとスラックスを制服にすることを発表されましたが、本校でも、生徒・保護者・地域の皆様のご意見を聞きながら、多様性が認められ、より選択の幅が広がるように、制服の在り方について検討を始めていきたいと考えております。

なお、本市では、すべての市民が、自分自身を大切に、自分らしく生き、そして互いに認め合えるまちを目指して、LGBTQ+ (性的マイノリティ)についても様々な支援に取り組んでいます。資料にありますように、LGBTQ+の人口規模は8%との調査があるようです。本年4月に担当部署が設置、7月より専用相談窓口「明石にじいろ相談」を開設され、専門職員2名が対応してくれるようです。電話相談は、学校のある時間帯ですが、生徒自身からの相談については柔軟に対応してくれるということですので、お悩みをお持ちの場合はご相談頂ければと思います。



## 重要

## 教育課程の変更について

このことについて、本校では、授業時数確保のために、「学校だより第56号」でお伝えしました通り、生徒の学力保障を第一義に考え、学校再開後の6月当初より「45分授業7校時設定」で行ってまいりました。その後、市教育委員会から、夏休み期間の短縮、卒業式を3月10日から3月17日に変更となったこと、2大行事の取組方法や時間を工夫したこと等により、想定以上に授業時数確保ができる状況になりました。

そこで、生徒の負担軽減及び冬季期間の完全下校時間を鑑み、2学期期末テストを3日間に、さらに、期末テスト以降の2学期末までを「50分授業6校時設定」に戻すことといたしました。また、3学期につきましては、新型コロナウイルス感染症による臨時休校等が発生しなければ、1・2年生については、標準授業時数をかなり超えることとなるため、再度「45分授業」に戻し、3年生は入試に向けて「7校時設定」、1・2年生は「6校時設定」で行うこととしました。

本年度は新型コロナウイルス感染症及び熱中症に対応するために度重なる変更となりますが、柔軟に教育課程を編成することにつきましてご理解頂きますようお願いいたします。